

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



東京オリンピック」と口に出来ない不自由さ

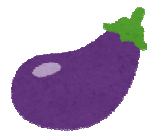
長引くコロナ禍にあって、今夏に予定されている東京オリンピックの話題にも熱が入って良い時期なのですが、当社ではそう簡単に華やかな話は出来ないのです。実は、昨年3月24日に延期が決まった時、私ども東葉警備保障では関連施設の周辺警備や、最寄り駅、会場までの入場ルート上の警備にエントリーすることで世紀のイベントに関りをもつことがほぼ決定していたのです。

そのために最も苦心したのが警備士を集めることでした。折からの人手不足で日給18,000円の好条件で求人をかけても思うように人数を確保できません。その時少なからず足枷になったのが「東京オリンピック」「東京2020」「東京五輪」といった文言を求人広告に載せることが許されなかったことです。

大手求人広告会社もスポンサー契約企業になった経験があるのでしょうか。オリンピックをイメージできる写真の掲載すら認めない徹底ぶりです。

仕方なしに「国際的スポーツ大会のお仕事」「今夏予定の大型スポーツイベントのサポーター」などと陳腐な求人コピーに腐心する羽目になりました。ただでさえ求人難の時に、どこで何をするのか不明な求人広告に頼らざるを得ない不自由さを嘆きつつも、今年もこれから3月末にかけて1年前と同じ人集めに取り組む準備を進めています。

現在採用活動中の2021年3月卒業、4月入社の新卒入社組には東京オリンピックの関連業務にたずさわってもらいます。コロナ禍のオリンピックではアスリートの活躍もさることながら、大会運営を支える企業とその社員、ボランティアの存在にもスポットライトが当たって欲しいと思うのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。「今年も若草色の封筒を待っています。」と年賀状をくださった先生がいっぱいます。SNSに負けない交流が出来ることに感激しました。本年も当社とともどもよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



コロナ禍での日経平均30000円到達

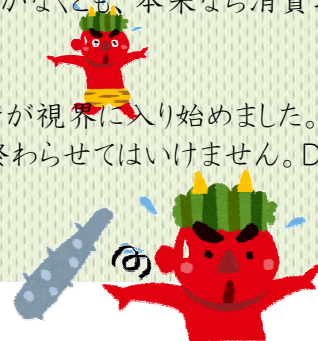
今から約1年前、国内でも新型コロナウイルス感染者が増えはじめ、有名芸能人が感染によって死亡したことを伝える報道が過熱し、市中の不安感がピークに達したことは記憶に鮮明です。学校の卒業式は縮小・中止に追い込まれ、人の移動と行動を制限することに躊躇できない世論が形成されて行きました。

人が外出を制限されることで経済活動は縮小し、未曾有の大不況がやってくると予測することは当然の成り行きです。1年前の3/19～27にかけ世界の株式市場は大暴落しました。

その時の総悲観の中にあって、現在の株式市場の水準を想像できた者はほとんどいないでしょう。世界各国で想像を絶する強力な経済対策が実行されました。日本ではスピード感に欠ける政治家が世論の突き上げを食らいしぶしぶ政治決断するお決まりの体たらくですが、糸目のつかないカネが市中に流れてきたことで救われていることは多々あります。

その流動性によって緊急事態宣言下でも投資家は資産を着実に増やしていることが社会不安を抑えています。企業業績が意外と強いのも株高のおかげです。コロナがなくても、本来なら消費増税＋在庫調整で今頃日本経済は厳しい局面にあったとさえ思います。

新型ワクチン開発が驚異的なスピードで実現し、コロナ克服の端緒が視界に入り始めました。テレワークやオンライン診療、オンライン学習などは一時のコロナしのぎに終わらせてはいけません。DXで立ち遅れている日本の課題です。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。別紙のとおり、卒業式前でも現3年生の採用活動を継続しております。今後とも当社をよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

警備業界の優位性

今から約1年前、正体不明の新型ウイルスの出現からその感染拡大防止策の肝として外出抑制が徹底されたことで、世の中の経済活動は一気に収縮してしまいました。当社の月次売上は昨年5月に最も激しく減少し、以降緩やかに回復傾向に転じ、今年3月には月間最高売上を更新するまでに回復してきました。

コロナ禍以前の警備業界では人手不足が深刻で、仕事はあっても警備士が集まらない苦労がありました。しかしそれが収益拡大に繋がる循環となるのは皮肉なものです。仕事量に対してそれをさばく人的供給がままならず、警備単価の値上げが受け入れられました。警備業界は他業種に比べ、好採算を満喫できた数少ない業種でした。

お客様に対する値上げ交渉がスムーズにまとまる商売はあまり聞いたことがありません。「人材サービス」に対する値下げ交渉は、原料・資材の値切り交渉のように安易にすべきでないとする風潮も生まれてきました。更には工業製品のように型落ちや在庫整理の及ぶものでないことも強みとなりました。

トヨタやソニーといった日の丸企業のトップランナーは凄まじいコスト管理で世界を相手に存在感を維持しています。しかし、その後ろを追いかけてきた名門上場企業が海外勢との競争で分が悪いのです。その姿を見ると、私ども警備業界の特異性とも言うべき、「海外企業との競争にさらされない内需企業の優位性」を感じます。それに甘んじることなく、日々、堅実な経営を行うべく精進して行きたいと思っています。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年度も拙文にて皆様に経営者として日頃より感じている事を綴ります。今後とも当社をよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

大谷翔平選手の活躍で思うこと

MLBのロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の活躍ぶりを伝えるニュースを仕事上のPCで確認するビジネスマンは多いことでしょう。海外で活躍するプロスポーツ選手が増えたのは、野茂、イチロー、松井、大谷と切れ目なく活躍選手を輩出する野球と、中田、高原、香川、長友、本田のサッカーが先鞭をつけ、直近ではゴルフ、テニス、バスケットボールとスポーツ種目範囲が広がっています。

彼らの活躍を見ていて、プレーもさることながら「言葉の壁」を乗り越えている姿に、これまでのスポーツ選手観がいかにつまらないものであったかを反省するのです。欧州の名門チームで活躍するサッカー選手が通訳なしでインタビューに答える映像は、私にとってはそれまでの語学教育観が崩れる程の衝撃でした。

外国語を操る人は、立派な大学の外国語学部や、英文科を卒業したエリートであり、その就職先は財閥系大手商社や海外支店を展開する世界的ハイテク企業だろうといった具合です。海外のフィールドに挑戦するアスリート達が中学・高校で通過してきた英語の授業の成績を気にする余裕はなかったでしょう。彼らが異なる言語を習得出来たのは行動力の違いだけかもしれない、と思うようになったのです。

海外で活躍する日本人アスリートは何も特別な存在ではありません。スポーツの世界よりずっと前に、無名のビジネスマンたちが日本経済を世界第2位の地位に押し上げる仕事を世界各地に散らばってやり遂げてきたのです。大谷翔平選手も無名のビジネスマン達も違いはありません。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年度も拙文にて皆様に経営者として日頃より感じている事を綴ります。今後とも当社をよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

日本の若者の避難先

コロナ禍にあってもNYダウは史上最高値を更新しつづけています。8月半ばには35500ドルを突破する一方で、日本の主要指標である日経平均株価は低迷しています。1989年の大納会でつけた高値を32年経っても抜けない日本と米国とは正に雲泥の差です。

NYダウの上昇力を支えるものにコロナ禍を意識した強力な景気対策がありますが、そればかりではありません。GAFAMに代表されるIT企業を追いかけるように、次世代分野にチャレンジしているユニコーン企業が5年おき、10年おきにマーケットに登場してきます。逞しい新興企業が投資家に富をもたらす好環境が継続しているのです。

日本の若者の資産運用が米国株式に積極的であることは有名です。イデコにはじまり、分散投資や積立投資で「老後2000万円問題」に備える真面目な若者が珍しくありません。彼らは日本株より米国株に信頼を寄せています。若者の金融資産の避難先は米国なのです。

かつて「オイルマネー」に負けないような「ジャパンマネー」などと言われた時代がありました。その時は日本企業に勢いがありました。海外ビジネスで利益を得ながら、いざ国内に資金還流しようとするれば強烈な円高を仕掛けられ結局懐に入らなかった惨めな国ぶりは今も変わりません。

オリンピック閉幕直後から、日本の株式市場ではグロース株(新興企業株)が叩き売られ、オールドエコノミーである海運株が人気化しています。コロナを克服した中国への荷動きが活発になることで潤ってきた海運業ですが、成長可能性を秘めた小さな会社を売って、旧財閥系大会社に乗り換えるとは将来に夢も希望もない国の話かと錯覚してしまいます。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年度も拙文にて皆様に経営者として日頃より感じている事を綴ります。今後とも当社をよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

勝ち過ぎた、弱め過ぎた

洋の東西を問わず、権力基盤の脆弱な指導者ほど外に敵を作り常に戦闘モードを喧伝したがるようです。ひとつ問題が解決すれば、新たな敵をつくり、常に自転車操業。隣国をして「瀬戸際外交」などと揶揄するだけではいつ被害者の憂き目にあうか心配が尽きません。

今の中国を見ていると、そんなよくあるパターンがピシャリと当てはまりません。そこは大国としての風格などと持ち上げたくなりますが、もう一つの超米国に喧嘩を売り、EUを恫喝し、周辺国にちょっかいを出すことを厭わないところが目につきます。まさに四面皆敵ですが、そんな状況でも本人はそれほど凹んでいません。

バブル期の1990年代始め、製造業において日本がひとり勝ちとなり「勝ちすぎた」時代がありました。オイルマネーをジャパンマネーが凌駕した瞬間でした。そこで米国はアジアで唯一民主主義が定着した日本と輸出企業を超円高というカードを使って弱めることに熱中しました。その結果、アジアの中でまともに話し合いが出来る日本を「弱めすぎた」のです。

現在のアジアの騒がしさは、明治以降～先の大戦を経過することで醸成されたアジアで突出した日本のプレゼンスが大幅に低下したことによるものと思います。米国の後悔するところを感じる現在のアジア情勢です。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。別紙の通り、各支店で入社試験を随時実施しております。お問い合わせをお待ち申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



野球ではなく、ベースボールだったから



今年のスポーツ界の出来事で印象深かったことは東京五輪開催を押しつけて大谷翔平選手の1年だったように思います。メジャーリーグ機構は今季のアメリカン・リーグMVP(最優秀選手)にエンゼルス・大谷翔平選手(27)が満票で選出されたと発表しました。日本人選手のMVP受賞は、2001年のイチローさん(当時マリナーズ)以来2人目の快挙となります。

今年のオールスター戦で彼は1番・指名打者兼先発投手として出場しました。選出されるだけで栄誉なことなのに、打者としても、投手としても超一流スタープレイヤー級の扱いです。

シーズンが終わってみれば本塁打王と2本差の46本塁打を記録しました。もしこれが日本球界だったら、まず投手がまともな勝負をしてくれないでしょう。日本の投手は時に死球すれすれの球を投げ込み、「腰を引かせる」とかバカなことを得意げに評価する悪習がまかり通ります。それが「野球」だからです。日本の投手なら大谷選手にはストライクゾーンに投げ込んでこないでしょう。

46本の被本塁打を食らったメジャーの投手達を見ていると、力勝負でストライクを投げ込んできます。死球を与えれば、仲間に報復があるから日本のように球威やコントロール以外のやりくりで飯を食う選手がいないのです。それが「ベースボール」であって大谷翔平が輝いたフィールドであったことは間違いないでしょう。



本年も1年間に渡り、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。別紙の通り、各支店で入社試験を現在でも随時実施しております。お問い合わせをお待ち申し上げます。

松本 隆一郎